

大曽根家の朝（1946）

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 日本
色彩 B&W
時間 81分
初公開日 1946/02/21

【解説】
木下恵介が戦後初めて監督した作品で、久坂栄二郎が脚本を担当。GHQの指導により、軍国主義を批判する反戦映画として製作された。
大曽根家は裕福な家庭だったが、長女の婚約者が出征、長男は思想犯として検挙され、画家を目指していた次男は応召、空襲で焼け出された叔父夫婦が移り住んでくるなど、戦争に翻弄されていた。軍人である叔父は我が物顔で暮らし、その叔父に感化された三男は海軍予備学生を志願してしまう。叔父は母の許可を得ずに話を進めてしまうばかりか、長女の縁談まで勝手に進めようとしていた。やがて叔父は終戦の知らせを誰よりも早く入手、物資を大量に持ち込み始めた。母の房子は叔父の態度を責め、ついには叔父夫婦を家から立ち退かせるのだった。

【クレジット】
監督 木下恵介
製作 細谷辰雄
企画 細谷辰雄
脚本 久坂栄二郎
撮影 楠田浩之
美術 森幹男
音楽 浅井拳嘩
出演 杉村春子 大曽根房子
長尾敏之助 長男 一郎
徳大寺伸 次男 泰二
大坂志郎 三男 隆
三浦光子 娘 悠子
小沢栄太郎 大曽根一成
賀原夏子 妻 幸子
増田順二 実成明
藤輪欣司 丹波平兵衛
西村青児 特高主任
鈴木彰三 古賀
高松栄子 婆や
国兼久子 女中
東野英治郎 八巻一平